

甲南学園創立者 平生鈇三郎のことば 1866(慶応2)年～1945(昭和20)年
 実業家として東京海上保険をはじめとする損害保険業界の近代化に貢献し、川崎造船所の再建にも携わる。その傍ら、政府の命を受けブラジルへの経済使節団団長を務め両国の親善友好にも貢献。また、甲南病院の設立や、相互扶助の精神に賛同し灘購買組合(現生活協同組合コープこうべ)の結成に尽力するなど社会事業にも情熱を傾けた。さらに、政界では文部大臣を務めるなど、多方面で精力的に活躍するが、教育事業家・教育者であることを天職とし甲南学園を創立した。

天稟有能な 青年に学資を 給し以つて 国家に報謝せん

『平生鈇三郎自伝』平生鈇三郎著 安西敏三校訂
 (名古屋大学出版会、一九九六年)

自らが苦学した経験から、私費で立ち上げた学資給付事業。
 国家や社会のために働く人材育成をめざした。

平生鈇三郎は1912(明治45)年 拾い上げるの意味から「拾芳会」と名から、有能でありながら経済的に困窮 付けられ、全国から集まった会員は約し進学できない若者たちに学資を与え 160名におよび、平生家に下宿する事業を開始しました。与えた学資に 者も。右の写真、前より2列目中央について一切の返金をせまりませんでした 子どもを膝に乗せ、写真に収まる平生が、平生は援助するときに、将来国家の姿が見えます。知識の詰め込みを嫌い、や社会、人々のために働く人間になること 人格の修養を重視した平生は、このように若者とともに過ごす時間を通して、ことから事業は、単なる金持ちの道楽 自らの経験や考えを伝え、彼らの魂をなどではなく、平生なりの国家への貢献 も磨きました。拾芳会から巣立った者だったことが理解できます。 は、後に科学技術や医学の進展に寄与するなど、多方面で活躍しました。

意欲のある若者の志を支援することが甲南の使命。
 時を経て平生の魂は、しっかりと学園に根付いている。

甲南学園では、2019(平成31) スカラシップ倶楽部」を2013年に発年に迎える創立100周年に向け、足りました。奨学生たちが卒業後もさまざまな記念事業を本格的に始動 代を超え交流する中で、甲南ファミリーしています。「甲南新世紀KONAN リーの員として社会に貢献し、また甲 Higher Quality 教育 南学園発展のアンバサダー的存在をの「実現」を掲げるその事業では、奨学金 担ってもらうことが目的です。拾芳会制度にも重きを置き、従来から整備し から巣立った先達たちが、その後、日本にいるものに加え、新たな奨学金を拡充 の各界を支えたように、この倶楽部のするべく、計画を推進しています。また、若者たちが、社会を切り拓いてくれる学園や同窓会の奨学生による「甲南 ことを期待しています。



1921(大正10)年 拾芳大会



当時、奨学生が寝食をともにし、大志を育んだ「拾芳寮」。その名標は、平生直筆によるものでした。



「甲南スカラシップ倶楽部」の卒業記念パーティーでは、奨学生や教員が集い、社会への貢献と卒業後のつながりを確認しました。

さまざまな“志”を支える奨学金制度

甲南大学では、学内独自の奨学金をはじめ、多数の奨学金を取り扱っており数多くの学生が利用しています。学業のほかスポーツ・文化・国際交流・社会貢献など、課外活動を奨励する特待生制度・表彰制度も充実させ、甲南らしい人物育成を支援しています。